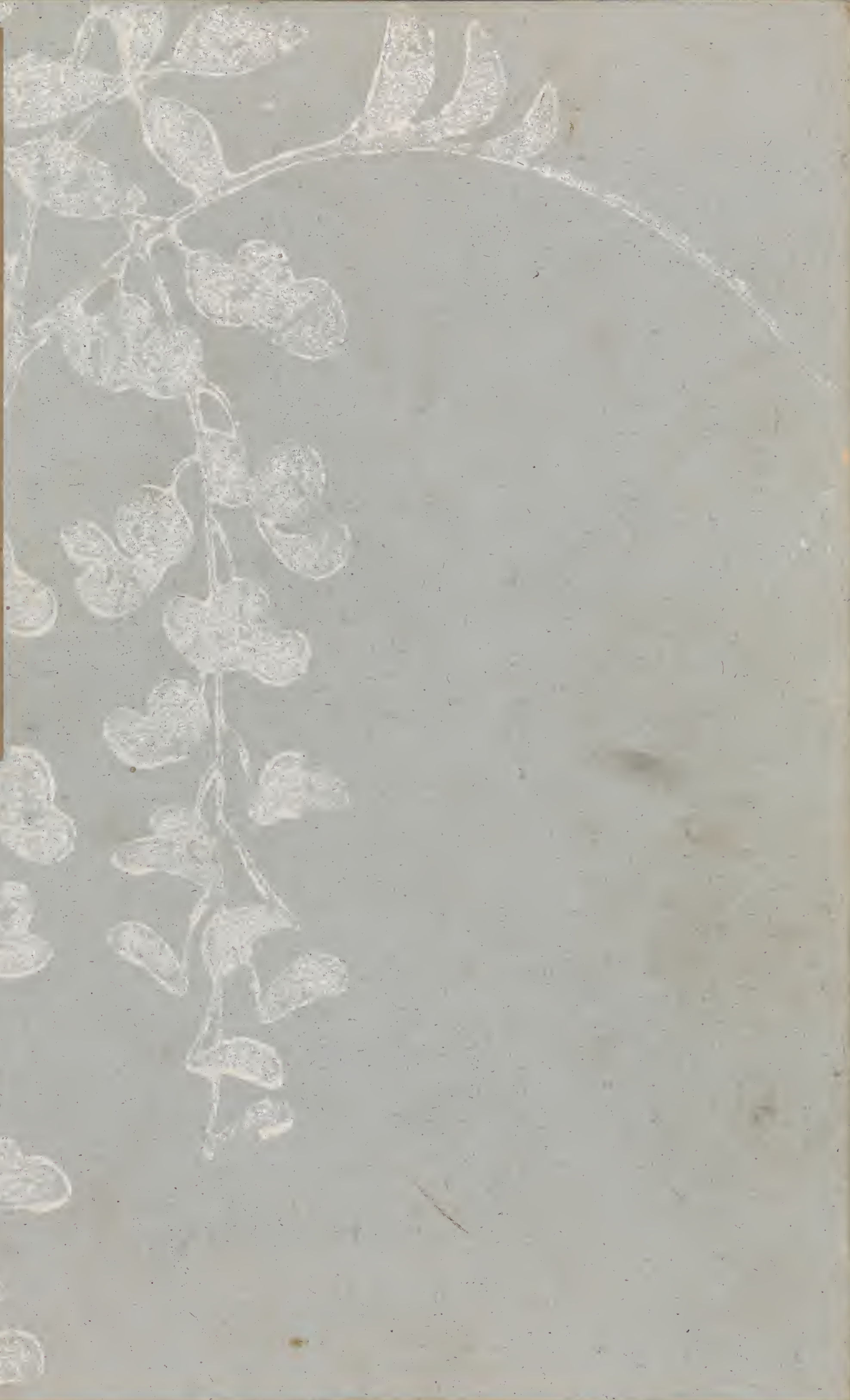


早稲





三下才一一一一一一一ト二二二ト二二一

雲路を―流く梅影を―出ろ

目能まを―を―詞やうみ

老を大倉乃天物此首能善象折

少うは、楓もわりの國を以て

音王山有就寺殿の巻に至ると

がも懐心の響に―那わりのさ

後引さの―事な―海や









木乃木友先ちるゝおホ、位へ  
 所よりいひ以り小は菴家乃内へ  
 粟内中ひ馬 旅より渡里より  
 是より大唐の天物乃首領善象坊  
 よりより法目よりかゝ里中鎮以  
 べき事能くささるゝ一袂まへ  
 まりわたりん手 ちりる及より  
 善象坊よりわたり先柔の

菴家へ法入よりさへたゝる  
 河乃よりあゝ御出より手 せんひ  
 喉今柔るより能俊よりあゝひ  
 かの國よりをりへハかも懐心の  
 善象坊より那我さより後引より  
 してさるゝな 法やの本ハ佛法



きつて方なりよー取及右海に  
おぼゆる中なるをよー  
思ひこころ了は回一を巻法心を  
ひと法よー一を白地乃本定を  
道一抄く <sup>半</sup> 板巻屋をー  
思及立ちも好お支那山ハ天地  
昇降よわけつる先心神國よわ

ごれん佛法の心日まの草なわ  
しんまのまは <sup>上</sup> 敷心あはる  
日本の天台山よ <sup>上</sup> 心好まよ  
まのこひ抄く <sup>上</sup> 板心よく  
たよわあるごれん天台乃佛法を  
授美しあよわのち <sup>上</sup> 又書家の  
奥儀を清く <sup>上</sup> 影書通字乃所























たゞしきつゝ 明王法天ハキキ  
をきぬくこちく風小志を  
みもな 山王権現 南ノ男山  
西ノ松子瓦 水聖や賀友子  
山風神風吹りへんきもに  
苑りの畑も地よ木も草も  
海老のハ時の波にまはる

みえし 又死来るるも  
お願はぬまは佛カ神カ今もわ  
はゝ来はまゝ 覺りも強りも  
虚をよみたるも あらむらわ  
こゝろみ乃こほそ染ハ雲路は  
づかすりもわ



